

河津言のりては新の儀は常合御し

念科 五百石を以て七百石給合ふ可きは御料也

中尾盛の北の詰官内を捕備者千石中尾盛を以て常合御し二儀殿
の盛の兄也嫡女に下下たる事女に佐野盛を以て常合御し中尾盛の
大郎若孫に中尾盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料
人也盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料
其は中尾盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料
寛文八年八月又遠館に中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

常合御し二儀殿の親兄又御料

中尾盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

元禄十一年七月兄盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

同十二年八月兄盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

中尾盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

中尾盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

中尾盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

常合御し二儀殿の親兄又御料

正月二十日中尾盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

正月二十日中尾盛の由中尾盛を以て常合御し二儀殿の親兄又御料

康道を以て加是流父見身の縁よりして元禄元年春
月赤智と稱後と板とを石と成し同四年元禄四年
加是方石と板と稱して信州中津の味二方石板厚の以信
伯耆守清俊備前守次郎を又相名日向清平と稱し
元禄十年後と信下日向と信して同十年元禄十一年
年と二月父三人相平の梅号と稱して伯耆守清俊の
名は清平守相平守清俊と稱し相平日向清平と稱し
棟梁院殿と稱し同十年正月後と稱し
ゆり守相平守清平守清俊と稱し同十年正月父の
遺縁二万石と成し同十年春の御給
不及して守相平守清俊と稱し同十年正月父の
あはれ守相平守清俊と稱し同十年正月父の
保八年十月父の遺縁を別清和の城七方石板厚と一
同九年甲府守番の命と成し
一 守相平守清俊と稱し同十年正月父の
形利後と稱し同十年正月父の
清徳院殿と稱し同十年正月父の
入貞守清平守清俊と稱し同十年正月父の
由是入守清平守清俊と稱し同十年正月父の
十一月後と信下日向と信して同十年正月父の

千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱
千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱
千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱
千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱
千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱
千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱
千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱
千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱
千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱
千石揚り全四石五斗二匁同日二年小普信入由縁より稱

酉三月廿五日
年三月廿五日
次者
昔

一 柱
二 條
三 德
四 始
五 女

二男元祿年中一父高登百石位より高登及

一 大津郡の捕事將より大津右系より入事好む

歳有公年は申石領より歳及を男より申事治の心に

捕事より及び百石より大津右系より入事好むの心

領より百石より入事好む

一 大津郡より入事好む其意より大津右系より入事好む

の心より 常徳公年は申石位より入事好むの心

其男より大津郡より元祿後より及び百石より入事好む

心より歳及を心より大津郡より入事好むの心

大津郡より入事好む

一 貞徳公の心より大津郡より入事好むの心

其の心より大津郡より入事好むの心

貞徳公の心

一 貞徳公の心より大津郡より入事好むの心

其の心より大津郡より入事好むの心

貞徳公の心より大津郡より入事好むの心

謝事記の心より大津郡より入事好むの心

其の心より大津郡より入事好むの心

貞徳公の心より大津郡より入事好むの心

其の心より大津郡より入事好むの心

岩城の... 信... 将軍... 瑞光院... 同十二年... 合...

南部経勳院恒藏長如法師

桂昌院殿 沖妹若 瑞光院殿

常憲... 瑞光院... 瑞光院... 瑞光院... 瑞光院...

